
魔法使いの隠居生活

つきみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法使いの隠居生活

【Nコード】

N 1 2 3 4 P

【作者名】

つきみ

【あらすじ】

魔法使いの青年の隠居生活。のんびり過ごす毎日。気が赴くままにのんびりつらつらと書いていきます。そのうちおんにゃの子とのんびりする話も書きたいかもしれません。掌編連載という感じで文字数は少ないです。

いつもの朝から。 (前書き)

ふと物語を書いてみたいと思いました。どうぞよろしくお願いします。

いつもの朝から。

「ふー、今日もいい朝だね」

一人の青年が木製の小さな一戸建ての家から出てくる。

朝日が木々の隙間から彼を照らす。

彼以外、住人がいない森の中。

「さて、まず朝御飯からだ」

家の中に戻り木屑を放り込み、指を振る。

そして、木屑が燃え出す。

この世界では魔法というものがある。

今のように火を出したり、水を出したり、怪我を治したり……。人によって様々なものがある。

「昨日の晩御飯の残りの味噌汁と……後は保存庫に、と……あつたあつた。パン食べよつと」

もぐもぐ。

「んーと、後で畑を耕して……街に売ってそんでいるもんを買ってくるかねえ」

指を振ると火が消えた。

「さて、今日ものんびり過ごそう。そうしょー。えいえい、おー」

近くの町 - 1 -

森を抜ければそれなりに大きな町がある。
今日はここで買出しの日だ。

さすがに全てを自給自足するのは難しい。

「あ、トキさん。今日も持つてきましたよ」

いつもどおり、この世界では珍しい黒髪を腰まで綺麗に伸ばしている齡23の女性、トキが彼の相手をする。

「あつ。お兄さんおはようございますっ」

「はい、おはようさん。全部無農薬ですからね」

野菜をどさりと置く。

「わあ。相変わらず細い身体なのに力持ちですね」
「そうかな？ ありがとう」

ふわりと彼女が着ているワンピースが揺れ動く。
この街でもヒロインの座を争う彼女の笑顔はいつ見ても美しい。

強化魔法をかけて基礎力を底上げしている彼は涼しい顔で答えた。

「じゃあ、いつもの値段で買取ますね」

「うん。ありがとう。今回のも絶対美味しいからね」

「やったっ。いつもありがとうございます。あつ、そうだ」

「うん？」

「今日のお昼は我が家にどうですか？ このお野菜たちを使って美

美味しい料理をご馳走しますよ」

「いやいや、そんな悪い……」

「いえっ！ 大丈夫です！ お父さんも喜ぶんで来て下さいよ！」

「え、ああ……うん。わかった。そこまで言うなら……邪魔させてもらっよ」

「本当ですか！？ やったあ！」

ささ、行きましょう！ と彼の手を引くトキ。

その笑顔に推されてやれやれと手を引かれていく。

人との関わることを好まない彼にとっては、珍しいことであった。

近くの町 - 2 -

「じゃーんっ。どうですかっ？」

「おおー」

目の前には美味しそうな料理が並んでいた。

「凄いね。あの食材からこれほど・・・」

「えへへ。今日は自信作なんですよ」

トキの笑顔はとても眩しく感じる。

「美味しいよ。とっても、ね」

「良かったあ」

「ただいま」

「あ、お父さん。おかえりなさい！」

「お邪魔してます」

「おやおや。久しぶりだねえ」

「そう、ですね。こちらにお邪魔するのは久しぶりですね・・・」

「ほらっ。お父さんも食べよう！ お腹空いたでしょう？」

「ああ。もちろん頂くよ」

「うんっ。ちょっと待っててね！」

ぱたぱたと台所へ行った彼女に安心して。

「随分と、明るくなりましたね」

「そうだねえ。最初はどうかと思ったが・・・」

父は遠い目をする。

「あの頃のこととは恐らくショックで抜けてしまったんだろう、とお医者さんには言われたよ」

「そう、ですか・・・」

「僕が父親だつて信じてるんだからねえ」

「貴方は間違いなく父親ですよ。血は、繋がってなくとも、ね」

「そうかい・・・ありがとうねえ」

「トキさんを貴方に押し付けたのも全て――」

「ほれ、トキが来る。話は終わりだねえ」

「お待たせっ！・・・どうかしました？」

「いや、今日もトキさんは可愛いな、と思ってね」

「にやっ、ふぁあっ！！」

近くの町 - 3 -

夜中、自分の家で寝ていた時だ。
なんとなく。

なんとなくだが。

嫌な予感がした。

家を飛び出し町の方を見る。

そして、夜ということを忘れるほどの赤い炎。夜空を汚す煙。

「ふざけろっ!」

すぐさま自身に強化魔法をかけ、風の魔法で空へと飛び立つ。

「トキ!! あの人との約束を破る訳には……!」

トキを守ってくれと約束をした。

「……くそっ!」

そして、覚醒させないでくれとも。
産み親とも言える研究員に言われている。

「戦闘行為に身を委ねるのは厳禁……だってね!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1234p/>

魔法使いの隠居生活

2011年3月19日14時35分発行